

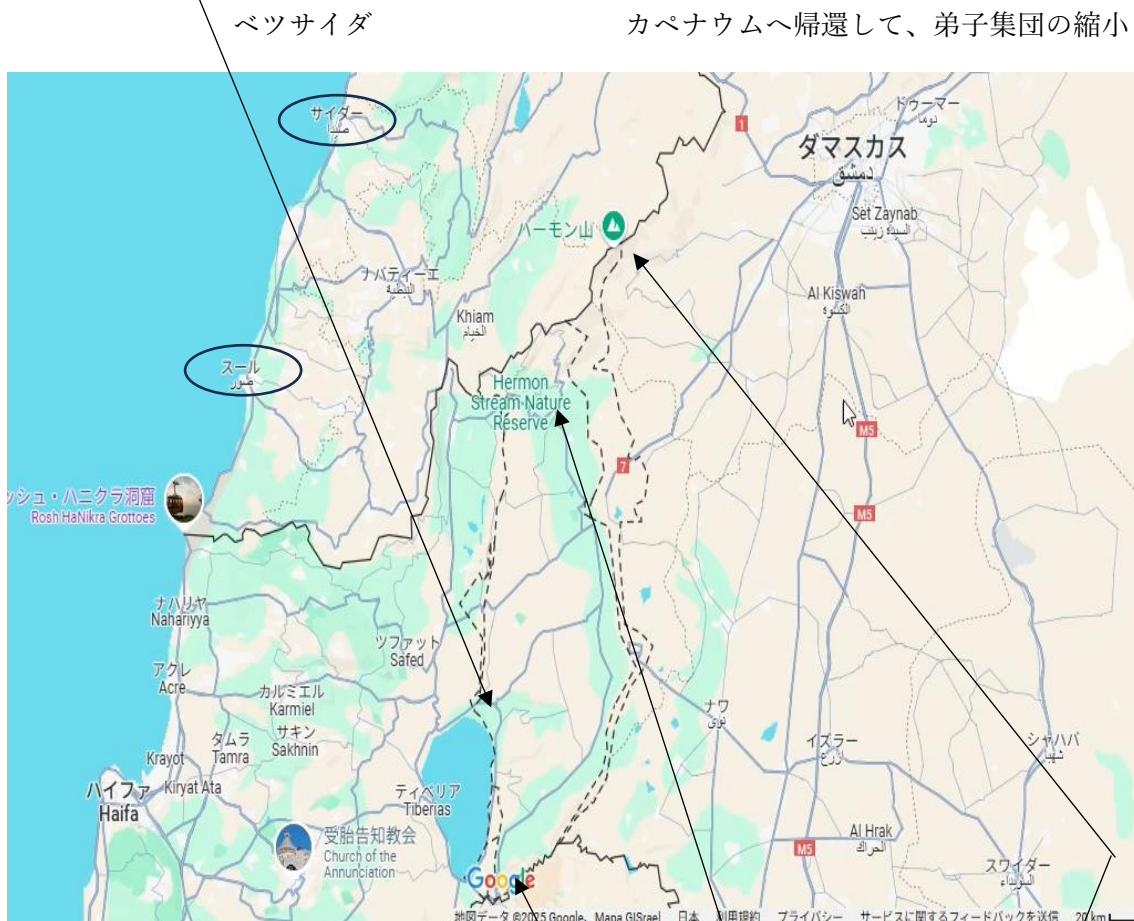
四回目のメシア的奇跡による弟子訓練

□前回のハイライトからのつながり (下の地図は、現代です)

五千人の給食と弟子集団の縮小

異邦人地域へのリトリート 1 回目

カペナウムへ帰還して、弟子集団の縮小



異邦人地域へのリトリート第 2 回 ツロとシドン (現代の地名スールとサイダー)

異邦人地域へのリトリート第 3 回 デカポリス地方 四千人の給食の奇跡

ペテロの信仰告白とイエスの変貌

異邦人地域へのリトリート 4 回目



ピリポ・カイサリア

ヘルモン山のふもと 変貌は山の上で

四回目のメシア的奇跡による弟子訓練

引き続きピリポ・カイサリアにて

ヘルモン山のふもとにて

□アウトライン

- I. 山を下りたところでは、群衆に 9 人の弟子たちが囲まれて騒動が起きていた
- II. 四回目のメシア的奇跡
- III. 弟子たちへの教え：信仰と祈り

I. 山を下りたところでは、群衆に 9 人の弟子たちが囲まれて騒動が起きていた

イエスと 3 人の弟子たちが山を下りて、ほかの弟子たちとの合流地点に来ると、何やら騒動が起きていた（マルコ 9：14～18）

- 1. マルコ 9：14 さて、彼らがほかの弟子たちのところに戻ると、大勢の群衆がその弟子たちを囲んで、律法学者たちが彼らと論じ合っているのが見えた。
 - 大勢の群衆・・・地元の人々ではない。ユダヤ人の群衆が、イエスたち一行を追いかけて、異邦人地域であるピリポ・カイサリアにまで来ている。前回のハイライトでも、群衆がイエスから教えを受けたという記事があった。
 - 律法学者たち・・・イエスの動向を監視する監視団。ユダヤ議会サンヘドリンから派遣されている。すでにユダヤ指導層はイエスをメシアではないと判定し、そのように民衆に公表していた。それでもなお、民衆の中にかなりの支持者がいたので、引き続き監視をしていた。彼らの任務は、イエスを非難する口実を見つけること、そのために質問攻めにすることであった。
 - イエスと 3 人の弟子たちが山から下りてきて、他の弟子たち（9 人）との合流地点まで来ると、9 人の弟子たちのまわりを大勢の群衆が取り囲んでいた。群衆の中に律法学者たちもいて、弟子たちに質問を浴びせ、群衆を煽っていた。
- 2. マルコ 9：15～18 群衆はみな、すぐにイエスを見つけると非常に驚き、駆け寄って来てあいさつをした。イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を論じ合っているのですか。」とお尋ねになった。すると群衆の一人が答えた。「先生。口をきけなくする霊につかれた私の息子を、あなたのところに連れて来ました。その霊が息子に取りつくと、ところかまわず倒します。息子は泡を吹き、歯ざしりして、からだをこわばらせます。それであなたのお弟子たちに、霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、できませんでした。」
 - 群衆の中心人物は、口をきけなくする霊につかれた息子を持つ父親であった。その息子を連れて、イエスたち一行を追いかけて、ヘルモン山のふもとまで来ていた。
 - この父親が息子を連れて来た目的は、口をきけなくする霊を追い出してもらうためであった。この時より前に、イエスが口をきけなくする霊を追い出したことは

2 回あった（1 回目はマタイ 12：22～45、2 回目は 9：32～33）。その場に彼自身が居合わせて目撃したのか、それともその評判を聞いたのか、いずれかであろう。

3. 14 節「論じ合っていた」・・・群衆は律法学者たちに扇動されて、9 人の弟子たちと「論じ合っていた」とあるが、何を論じ合っていたのか。イエスがメシアであるか、そうではないか、である。弟子たちには悪霊を追い出せないのは、師であるイエスがメシアではない証拠だと、律法学者たちはなじったのであろう。

9 人の弟子たちを含め 12 人の弟子たち（使徒たち）は、「十二弟子の派遣」のときにイエスから悪霊を追い出す権威を授けられ、派遣先で実際に悪霊を追い出す経験は積んでいた。しかし、今回のケースでは、9 人の弟子たちは悪霊の追い出しができなかった。

II. 四回目のメシア的奇跡（口をきけなくする悪霊の追い出しとしては 3 回目）

イエスは、3 つのステップを踏んで、その子から霊を追い出した（マルコ 9：19～27）

第一、父親とその子を群衆から引き離して自分のところに呼び寄せた。

第二、父親に個人的必要を言わせ、信仰があることを確認した。

第三、群衆が近くまで来る前に、その子から霊を追い出した。

1. マルコ 9：19～20a イエスは彼らに言われた。「ああ、不信仰な時代だ。いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか。その子をわたしのところに連れて来なさい。」そこで、人々はその子をイエスのもとに連れて来た。

- 不信仰な時代・・・イエスをメシアと認めない不信仰なユダヤ人たちの世代。イエスの公生涯のときのイスラエル民族のあの世代を指す。
- あなたがた・・・その世代のユダヤ人たち。ここでは、イエスを追いかけて来ていた群衆と、監視団の律法学者たちを指す。彼らの不信仰をイエスは嘆いた。
- 「いつまで、わたしはあなたがたと一緒にいなければならないのか。いつまで、あなたがたに我慢しなければならないのか」・・・イエスはいよいよメシアの使命を遂行しようとしているわけではない。聖いお方にとって、不信仰と汚れに満ちたこの地上を歩むことは、我慢するほかないことであった。
- イエスは、父親に向かって、子を連れて来るように言った。これは、群衆から引き離すためであった。

2. ルカ 9：42a その子が来る途中でも、悪霊は彼を倒して引きつけを起こさせた。

マルコ 9：20b～22 イエスを見ると、霊がすぐ彼に引きつけを起こさせたので、彼は地面に倒れ、泡を吹きながら転げ回った。イエスは父親にお尋ねになった。「この子にこのようなことが起こるようになってから、どのくらいたちますか。」父親は答えた。「幼い時からです。霊は息子を殺そうとして、何度も火の中や水の中に投げ込みまし

た。しかし、おできになるなら、私たちをあわれんでお助けください。」

- 子が連れて来られると、イエスは父親に「この子にこのようなことが起こるようになってから、どのくらいたちますか。」と尋ねた。これは、父親に個人的な必要を言わせるためである。
- 奇跡を行うための目的と条件
 - ① イスラエルの指導者層がイエスをメシアではないと拒否するまでは、イエスの奇跡はメシアであることを示すためであった。それゆえ、奇跡を受ける側に、イエスを信じる信仰があるかどうかは問わなかった。しかし、メシア拒否のあとは、奇跡を行う目的は、信者の個人的必要に応じるためとなった。
 - ② それゆえ、イエスが奇跡を行うときの条件は、次の三つ
 1. 群衆の前で公然とはしない（近くにおいて結果的に知るのよし）
 2. 個人的必要に応じる
 3. 奇跡を受ける人がイエスをメシアであると信じ、イエスには奇跡を行う力があると信じる
- ここでは、三つ目の条件が欠ける。父親の発言「おできになるなら」は、疑っている者のことばである。イエスはここで父親の不信仰を除きにかかる。

マルコ 9:23～24 イエスは言われた。「できるなら、と言うのですか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」するとすぐに、その子の父親は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください。」

- 「もしできるなら、と言うのか！ 信じる者には、どんなことでもできる！」こイエスのことばを聞いた瞬間、父親の心が大きく動いた。「信じます！ 不信仰な私をお助けください！」

3. マルコ 9:25～27 イエスは、群衆が駆け寄って来るのを見ると、汚れた霊を叱って言われた。「口をきけなくし、耳を聞こえなくする霊。わたしはおまえに命じる。この子から出て行け。二度とこの子に入らな。」すると霊は叫び声をあげ、その子を激しく引きつけさせて出て行った。するとその子が死んだようになったので、多くの人たちは「この子は死んでしまった」と言った。しかし、イエスが手を取って起こされると、その子は立ち上がった。

- 悪霊は、その子から出て行くときに最後の悪あがきをして、その子を苦しめた。しかし、イエスが手を取って起こすと、その子は立ち上がった。何の障害も残らなかった。

ルカ 9:42b～43a イエスは汚れた霊を叱り、その子を癒やして父親に渡された。人々はみな、神の偉大さに驚嘆した。

- 公然と群衆の前で起きたわけではないが、人々は悪霊が追い出されたとわかった。

Ⅲ. 弟子たちへの教え：信仰と祈り

このあと、イエスと弟子たちは家に入った。自分たちだけになると、弟子たちはイエスに、なぜ自分たちには悪霊の追い出しができなかったのか、尋ねた（マルコ9：28～29、マタイ17：20）

1. マルコ9：28～29 イエスが家に入られると、弟子たちがそっと尋ねた。「私たちが霊を追い出せなかったのは、なぜですか。」すると、イエスは言われた。「この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出すことができません。」

- 弟子たちの方法が間違っていた。
- この種のもの・・・「口をきけなくする霊」を指す。ユダヤ教ラビたちが行う通常の悪霊の追い出しの方法【悪霊の名前を聞き出して、その名前を呼んで、出て行くように命じる】は、この種のものでは使えない。それゆえ、この種のものができればその人はメシアであると、当時のユダヤ教ラビたちは教えていた。
また、「耳を聞こえなくする霊」なので、弟子たちが「イエスの名によって」命じても（参照 使徒16：18、19：13）、通じなかった。
- イエスは、この種の悪霊の追い出しは、祈りによらねばならないと教えた。

2. マタイ17：20 イエスは言われた。「あなたがたの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに言います。もし、からし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と言えば移ります。あなたがたにできないことは何もあります。」

- 弟子たちの信仰が薄かった・・・もし、いつもの方法で追い出せなかったら、そのときに弟子たちがすべきことは、祈ることである。それをしなかったというのは、信仰が不足していたからである。
- からし種ほどの信仰があるなら・・・弟子たちの信仰が不足していたとはいえ、彼ら自身の力や敬虔さの問題ではない（使徒3：12）。自分にできないときに、即座に神に信頼して祈るかどうかが、それだけである。だから、「からし種ほどの信仰」があればよい。祈りに答えて事を成してくださるのは、神である。
- 「山」とは何を指すか・・・諸説あるが、旧約聖書で「山」は王国を象徴する。ここでの文脈から考えられるのは、サタンの王国である。使徒たちが祈れば、この種の特珠で強力な悪霊であっても追い出すことができる、そしてひいては、サタンとその配下の悪霊たちの国を動揺させることができるという意味である。